

平成24年度第3回府中市障害者等地域自立支援協議会 会議録

■ 日 時：平成25年2月14日（木） 午後2時～午後4時

■ 場 所：府中市役所北庁舎3階第3会議室

■ 出席者：（敬称略）

＜委 員＞見ル野一太、石見龍也、中川さゆり、山岡広法、真鍋美一、
真下加代子、河井文、山本博美、大木道子、石橋直美、
犬飼知子、小池努、蜂須米雄、古寺久仁子、行本理、桑田智
＜事務局＞福祉保健部長、障害者福祉課長、障害者福祉課長補佐、
障害者福祉課生活係長、事務職員

■ 傍聴者：なし

■ 議 事：1 前回会議録について

2 報告事項

- (1) 運営会議からの最終報告（サービス利用計画について）
- (2) ツール検討部会からの最終報告
- (3) 災害時支援検討部会からの最終報告

3 協議事項

- (1) 第3期府中市障害者等地域自立支援協議会報告書（案）について
- (2) 今後の府中市障害者等地域自立支援協議会について（案）

4 その他

■ 資 料：資料1 平成24年度第2回府中市障害者等地域自立支援協議会会議録
（案）

資料2 運営会議最終報告（案）

資料3 ツール検討部会最終報告（案）

資料4 災害時支援検討部会最終報告（案）

資料5 第3期府中市障害者等地域自立支援協議会報告書（案）

資料6 今後の府中市障害者等地域自立支援協議会について（案）

開会

■事務局

皆さん、こんにちは。

本日は、お忙しい中、ご出席を賜り誠にありがとうございます。ただいまより、平成24年度第3回府中市障害者等地域自立支援協議会を開催させていただきます。

まず、議事に入ります前に、お手元の資料を確認させていただきます。

本会議の次第でございます。続きまして、資料1、「前回会議の会議録（案）」、資料2といたしまして「運営会議最終報告（案）」、資料3といたしまして「ツール検討部会最終報告（案）」、資料4といたしまして「災害時支援検討部会最終報告（案）」、資料5といたしまして「第3期府中市障害者等地域自立支援協議会報告書（案）」、資料6といたしまして「今後の府中市障害者等地域自立支援協議会について（案）」。

資料は以上でございますが、不足、不備等はございませんでしょうか。

本日は、増田委員と岩崎委員から欠席とのご連絡を受けております。

それでは、河井会長よろしく願いいたします。

■会長

それでは、改めまして、皆様こんにちは。お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

早速、会議に入りますが、その前に、会議の公開に当たりまして傍聴希望者の入室ですが、今日は傍聴希望の方はいらっしゃらないということですので、このまま始めさせていただきます。

1 前回会議録について

■会長

では、次第に沿って進めますが、議事の1、前回会議録について、事務局から説明をお願いいたします。

■事務局

それでは、資料1についてご説明いたします。

本協議会第2回会議の会議録（案）でございます。内容につきましては記載のとおりでございます。この内容でよろしければ通常どおり会議録の公開を予定してございます。ご確認をよろしくお願いいたします。

■会長

事前に資料を配付させていただきましたので、皆さんご覧になったと思いますが、訂正箇所等がございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。

（発言する者なし）

■会長

特によろしいでしょうか。それでは、お手元にお配りしました資料のとおり、公開の

手続を踏んでいただくということで、事務局にお願いしたいと思います。

2 報告事項

(1) 運営会議からの最終報告（サービス利用計画について）

■会長

それでは、続きまして、議事の2、報告事項に入ります。

まず、報告事項2の（1）運営会議からの最終報告（サービス利用計画について）をよろしくお願いします。

■委員

運営会議の最終報告（案）について報告させていただきます。資料2をご覧ください。中間報告を受けて、最終報告を運営会議で検討してまいりました。

サービス利用計画についての現状につきましては、中間報告と数は変わっておりませんで、26年度までに全ての対象者についてサービス等利用計画を作成しなければいけないということと、大体の数が、今年度は上半期が140名、今後3年間のうちに1,300名程度が対象者として見込まれるということです。

それに対応して、何人の相談支援専門員が要るか等ですが、11月現在、府中市が指定した事業所は5カ所で、相談支援専門員は全体で10人であるということです。これから見ても、なかなか状況としては厳しいということがお分かりかと思います。

想定される課題と解決方法についてですけれども、課題としては、やはり事業所の数と質の担保、また、せっかくサービスを立てたにしても、その量が確保されることが必要だということ、あと、サービス等利用計画の課題を市民や関係者がともに検討して解決する仕組みを作るということです。この3点については、中間報告とは変わっていないのですが、最終報告では次のことを提案したいと考えています。

第1に、アですけれども、府中市が中心となってサービス等利用計画を推進することと書かせていただきました。ご存じかと思うのですが、サービス等利用計画は、計画を作っただけではなくて、その後、実行して、モニタリングをして、必要に応じて計画を変更していくというように循環を繰り返していくのです。それで、3年間のうちに立てればいいということなのですが、実際には今年立てなければいけないのではないかと焦ってしまうご本人やご家族がいます。また、事業者に連絡すると、自分たちが個別支援しているのだけれども、サービス等利用計画を立てるということはサービスを立てる事業者が支援することなのかとか、混乱がみられているようなことがございます。この混乱に対しては、市のほうが的確に相談に応じたり答えたりすることが望ましいかと考えております。

サービス利用計画を作っていく際は、計画の内容を始め、プロセスについては、対象者の方と事業者の担当の者に大体任されているのが現状なので、直接にはその関係でやっていくのですけれども、客観的な第三者として市が審査したり、実行可能な計画であるかという確認をしてもらうというのが必要だと考えています。

また、事業者はご本人が不利益を受けないように立てようとは考えているのですが、客観的に不利益を受けないように見ていただくという仕組みが必要だと考えています。

次に、イですけれども、障害福祉計画の中にサービス等利用計画に見合うサービス量や計画作成事業者の目標値を設定することですが、今年度の計画推進協議会においては、サービスの進行管理は適正に行われているとおおむね評価されているのですが、府中市における対象者、全障害者数は少しずつ増えているので、対象者の状況に合わせた適切なサービス等利用計画を作成したとしても、計画に対応できるサービス量がなければ対象者はなかなか暮らしていくことが難しいと考えられます。具体的には、ホームヘルプサービスとか、在宅のサービスが不足しがちではと考えております。

また、サービスを立てる事業所の数も不足する予想が立っているのですが、例えば、単一のサービスだけを利用して、利用計画も余り複雑にならないと予想される人も一定割合は存在しているので、具体的には、通所施設に毎日行っていて、そのほかのサービスを利用していない人などは、ご本人や家族や通所施設に対して相談、連絡調整、モニタリングを行うことで、計画の変更というのは余りないことが現状でありますし、今後とも予想されます。このような単一サービスなどのプランは、主に通所事業を運営している事業所が指定特定相談支援事業所の指定を受けて策定することが望ましいのではないかと考えられます。それで、より複雑な課題を抱えて複数のサービスを利用している対象者に、委託相談支援事業所や先行して今サービス等利用計画を立てている事業所が対応する方法も考えられると考えております。

次にウですが、サービス等利用計画の対象者が拡大され、かなり仕組みとして大きな転換を迎えていて、事業者も、すべてのところが頑張るとしても、さらに市として専門的な体制を整備していただくことが必要ではないかと考えております。

当事者の方のこととか、事業者を増やすこととか、いろいろな課題が出てくると思うので、そのために、自立支援協議会に相談支援部会を設けることを提案したいと考えております。

雑駁ですが、ご質問があったらぜひいただきたいと思います。よろしくお願いします。

■会長

ありがとうございました。

自立支援協議会そのものが、相談支援体制をどうやって確立していくかというのが大きな柱の一つになっておりまして、この中で話し合うのですが、市と指定相談支援事業所が中心となってやっていくということで、当協議会の運営会議でこれを協議してくださいということで、私からお願いして、今回の報告案になっています。

今のご説明について、ご質問、ご意見がある方は挙手をお願いしたいと思います。

いろいろなサービス提供事業所が積極的にこのサービス利用計画書の作成にかかわっていく中で、質を担保するために市が積極的に関与していくというのが底辺にあって、それを説明している文章と考えていただければ分かりやすいかと思います。

何かご質問、ご意見等ありましたら伺います。よろしいですか。

(発言する者なし)

■会長

それでは、こちらの案を市長報告の中に盛り込むということで進めさせていただきたいと思います。

(2) ツール検討部会からの最終報告

■会長

では、続きまして報告事項(2) ツール検討部会からの最終報告です。部会長からお願いします。

■委員

それでは、ツール検討部会の最終報告(案)につきましてご報告をさせていただきます。資料3をご覧くださいと思います。

中間報告までのものにつきましては省略させていただきまして、3ページをお開きいただきたいと思います。中ほど下の第6回会議をご覧ください。中間報告の後、第6回ということで11月21日にツール部会を開催させていただきました。内容につきましては、ツール内のサポートマップの様式の変更、ツールの名称など、引き続きツール案の内容について協議をしました。また、今後このツールを実現する際に必要な事項、説明会の実施、書き方の取扱説明書の作成、モニタリングなどについて協議をいたしました。

次に、第7回の会議は12月19日に開催いたしました。4ページをご覧ください。内容につきましては、ツールの正式名称案につきまして協議をいたしました。また、学齢期の市民に対して、ツール導入時及び導入後にどのような活用のされ方が望ましいか等について、学校の関係の方にオブザーバーとしてご出席いただきまして、ご意見をいただくことで調整することといたしました。

次に、第8回の会議です。平成25年1月9日に開催いたしました。この時は、オブザーバーとして教育部指導室の天津先生にご出席いただきました。内容といたしましては、ツールを学校で活用する場合の方法、教師や保護者に対する周知方法、就学前後に活用できるメリット等を強く強調することの重要性、個別指導計画とのすみ分け方、学校現場でツールを導入した際に考えられる点等についてご教示いただきました。その内容につきましては今後の検討に際して参考とすることといたしました。特にこの時に教えていただいたことにつきましては、ツールの中に、例えば、最初から障害に関する項目があると、かなり強い抵抗があるのではないかというお話をいただきまして、修正させていただいた部分がございます。

以上の検討結果を踏まえまして、別添のとおり、ツール案を作成いたしました。

なお、記録ノートの対象者等の設定につきましては、次のとおりです。

まず、ア、記録ノートの対象者としては、障害者に特化せず出生してからの全ての市民を対象とするとしています。

イ、記録ノートの構成については、出生前から生涯記録ができるように、ライフステージごとに構成を分類しております。出生前から就学前、学齢期、就労期、老年期と、ライフステージごとに記録を追加していく構成になっております。また、健康状態や通院先、投薬情報など特記して記録しておきたい場合は、シートを別に分けて記録ができるように考えております。

ウ、配布時期についてでございますが、出生前から就学前までの基本情報を記録するシートについては、母子手帳と同時に配布を考えております。学齢期はそれぞれの入学時に配布、就労期以降は市内の関係機関で入手できるようにしたいと考えております。また、市のホームページに記録ノートの様式を添付して、データでもダウンロードできるようにするのではないかと考えております。

エ、配布場所につきましては、上記ウで市内関係機関としておりますけれども、将来的には、配布場所の一覧表等を作成する必要もあると考えております。

それでは、ツールをご覧いただきたいと存じます。「府中市わたしの生涯記録ノート（仮称）」でございます。

まず、最初についておりますのが、これは母子手帳と一緒に同時期に渡すことを考えて、さらに、大津先生からご指摘いただきました障害に関するものを除いたものとなっております。ツールの中身につきましては、「はじめに」に続き、重要な情報が1ページから6ページになっております。

この後のものにつきましては、当初から考えておりました「障害者・児用」となっており、「はじめに」から始まっています。

そして、今現在はこの二段構えになってしまっているのですが、これにつきましては、近いうちに整理をしたいと考えております。そして、1つのものにさせていただいて、ライフステージに合った順番で作っていただけると考えておりますので、これにつきましては、再度部会で検討をさせていただきたいと思っています。

1年間、部会員の皆様、お忙しい中ご協力いただきましてありがとうございました。

簡単でございますが、以上で報告を終わらせていただきます。

■会長

ありがとうございました。

なかなかのボリュームで、資料がお手元に届いたときは、ツール部会以外の方はちょっと驚かれたかと思っておりますけれども、必要な情報は何かということ項目を考えて積算していった結果がこのページ数になっているということでございます。

一応こういう形で案として市長へ報告して、全市民を対象にするということで、障害者福祉課だけではなく、子育て支援課ですとか教育関係、医療関係というところでいろいろな各機関との調整も必要になってきますので、今後、若干その内容の変更等も必要になるかとは思いますが。市民が安心して府中市で暮らしていけるようにサポートするツールとして、これを利用してほしいということでまとめていただきました。

今のご説明と事前に配付されました資料をご覧になった上で、ご質問、ご意見があり

ましたら伺いたいと思います。

(発言する者なし)

■会長

よろしいですか。細かいページの割り振り、構成の順番といったことは、またモニタリング等々した上で改良を加えていくことになろうかと思いますが、基本的な構成はこういった形で進んでいくと考えています。

こういった支援ノートはいろいろなところで作っているのですが、全市民を対象にというのはそれほど数は多くないと思うので、府中市がそれを先駆的に始められればと思っておりますし、実現した暁には、ぜひ、引き出しの中に眠らないように、私のような当事者はもちろんのこと、事業所の方なども活用していただいて、役に立てたらと思っています。よろしいですか。

(発言する者なし)

■会長

それでは、ここに出させていただいた案を市長報告の中に盛り込むということで進めていきたいと思います。

(3) 災害時支援検討部会からの最終報告

■会長

それでは、続きまして、報告事項の(3)災害時支援検討部会からの最終報告をお願いします。

■委員

それでは、災害時支援検討部会の最終報告(案)について報告をさせていただきます。資料につきましては、資料4でございます。

災害時支援検討専門部会につきましては、全部で6回開催させていただいています。検討内容につきましては、1ページの2番目の(1)と(2)と、この2点に絞って協議をさせていただいております。

なお、第1回から第4回につきましては、主に(2)の避難所における適切な支援のために、障害別の特徴や支援ニーズなどを検討するということが検討されておまして、これにつきましては、中間報告等でもさせていただきましたので省略をさせていただきますと思います。

後半の第5回、第6回につきましては、1ページの(1)自治会、民生委員、近隣住民等との関係づくり、災害時に適切に支援が受けられるよう、障害者自身や支援者が普段からの取り組むべきことなどを検討するということを中心に行っております。

後半の2回につきましては、自分たちでできること、ともにできること、あと行政にお願いをすること、これを例えば、「本人・家族」については「自助」、「自治会・住民」、「施設・団体」については「共助」、「行政」については「公助」というような形で、3つに分けさせていただいて、各役割分担がどういうものであるかという話をさ

せていただきました。

この中で、「自助」につきましては「本人・家族」ということで、災害時要援護者の名簿登録をしておくということ、災害時、最低3日分、自分たちが必要としている薬とかも含めて準備をしておく必要があるということ、普段から隣近所の人ともあいさつができる関係づくりをしておくことが、とても大事なことなのではないだろうかとしております。

次に、「共助」についてですが、「自治会・住民区民」とございますが、自治会の中でも防災訓練等を行っているところもあるという話も聞いていますし、実際に行っているところもあります。障害のある方たちも参加ができるような配慮を自治会や住民の方たちも検討してもらおうとか。あと、地域での見守り体制。本人・家族も、地域の人たちとのふれあいを進めていかなくてもいけないかも知れませんが、反面、自治会や隣近所の人たちにも、地域ではそういう支援の必要な人も住んでいるということを、認識してもらい必要があるのではないかとしております。

それから、「施設・団体」がございます。1つは、地域の人たちと施設が防災訓練と一緒に実施する。特に大事だと思われたのが、災害時に福祉避難所としての役割を担うと。市内には、障害のある方が通われている施設がありますので、そういうところも避難場所として利用してもいいのではないだろうか。また、普段利用されている方がそういう場所に避難をしてくることによって、本人も安心して過ごせるのではないだろうか。また、職員についても、知的、精神、身体、さまざまな障害がありますので、障害のことについて最低限の理解をするような研修も必要ではないだろうかというような話が出てきております。

それから、「共助」の中で「社会福祉協議会」というのが出たのですが、今、隣近所のおつき合いが以前と比べると随分違ってきている中で、社協が積極的にまちづくりとか、いろいろな団体との連携にもかかわっていく。そして、住民、団体と一緒に自分たちのできることについて検討をしていくことが必要ではないか、というような意見も出されております。

最後ですが、「公助」として「行政」というところで、「災害発生時は避難所を設置し、情報・物資の提供、炊き出し等の実施」とありますが、まず、この中の「情報」については、避難所に避難されている方、避難していない方、地域にはいろいろな方がいらっしゃると思うのですが、平等に情報がきちんと入るように。例えば、食事の配布がある、医療機関が開設されるとか、さまざまな重要な情報があると思うのですが、避難所だけではなくて、避難所に行けない方についてもそういう情報が必ず入るような対策を検討していただきたい、というようなお話も出されています。

あともう1点、各委員からお話が出たのが、災害時に行政、住民、あと本人たちが一緒になって行動、対応できるようにするのが必要なのだと、また、それを支援していく仕組みも必要なのだということを報告書で上げさせていただけるということは、今までなかったことではないかという話が出ました。

このような形で報告書案をまとめさせていただきました。

■会長

ありがとうございました。非常に簡潔にまとめられていまして、ポイントが押さえられているので、誰が見てもわかる資料になっているかと思います。

市の防災計画というのは、府中市民25万人をどう支援するのかといった全体を見た防災計画になりますので、一人一人の支援をどうするかといった細かいところには、なかなか市の防災計画では目が行き届かないところに、こういったところからきちんと意見を出すことによって、市に気づいていただくきっかけになるのだらうと思いますので、これを市長報告の中に盛り込むというのは、非常に意義のあることだと私自身は思っています。

災害時の要援護者の障害別のニーズも、こうやってまとめていただくと、例えば、避難所の設置マニュアルを作成されていると思うのですが、そういったときに非常に参考になると思いますし、ぜひ、これを市の防災計画の中に生かしていただくように市長報告の中で強く求めていきたいとは思っています。

今のご説明のとおりだと思いますが、ほかに何か、これだけもうちょっとつけ足したいとかございますか。

■委員

申し訳ございません、1点報告を忘れてしまったのですが、中間報告のときに、障害別要援護者の特徴と災害時のニーズという中で、内部障害の方とか医療的ケアの必要な方への対応というのもお話があったと思うのですが、この内部障害、あと医療的ケアの件について、今、東京都のほうで協議をさせていただいているという情報を得ましたので、この表に載せるのを見合わせるということで、省かせていただいております。

■会長

ありがとうございました。

ほかに何かご意見、質問等、ありましたら伺いたいと思いますが。

■委員

簡単なことなのですけれども、「共助」のところの「平常時から、あらゆる障害に対応できるよう、職員の研修等を実施する。」ということですが、どのように実施しようかなどということは、部会の中で話されたのかを伺えたらと思ったのですが。

■委員

すみません、その話は出てきませんでした。基本的な対応については、研修は実施したほうが良いというところになっています。

■会長

研修等の「等」が大事なのだと思います。実際に研修を実施するというと、いろいろ難しいことがある。まずは手始めとして、例えば自閉症の方がハンドブックとかを作っていらっしゃいますよね、そういうものを身体施設の職員の方も、職員の事務室に1冊置いておいて時間があるときにちょっと見ていただくとか。そういう何か一つ一

つ小さいことからでも、お互いの理解を深める努力をしていくというところがまず大事なのだろうなと思います。

そういうことでよろしいですか。ほかに何かありますでしょうか。

(発言する者なし)

■会長

それでは、災害時支援検討部会の最終報告（案）はこれで了承されたということで、報告書に盛り込むことにいたします。

3 協議事項

(1) 第3期府中市障害者等地域自立支援協議会報告書（案）について

■会長

それでは、報告事項については以上ですので、3の協議事項に入ります。

まず初めに、第3期府中市障害者等地域自立支援協議会報告書（案）について、資料5について、事務局から説明をお願いします。

■事務局

では、資料5につきましてご説明いたします。こちらは、「第3期府中市障害者等地域自立支援協議会報告書（案）」でございます。

第3期自立支援協議会の検討結果をまとめた報告書として市長に提出するもので、平成23年度及び24年度に検討した内容をまとめたものでございます。

平成23年度は、障害者に対して、そのライフステージの変化によって切れ目のない支援が継続されるように、ライフステージごとに、「児童部会」、「青年部会」、「壮年・老年部会」の3部会を設置し、課題や解決策等について検討をしていただきました。

また、平成24年度には、平成23年度の検討を踏まえまして、「ツール検討部会」を設置し、切れ目のない支援の一助とするためのツールについて検討していただきました。さらに、「災害時支援検討部会」を設置いたしまして、災害時に障害者が避難所等で支援が受けられるためのニーズの洗い出し、また、災害時に障害者本人・家族、地域、行政等がどのように取り組むかについて、自助、共助、公助の視点で検討をしていただきました。

前後いたしますが、運営会議におきましては、本年度からサービスの提供がスタートしております、サービス利用計画の進め方について検討していただきました。

なお、本報告書につきましては、3月26日火曜日に正副会長から市長に対しまして提出される予定となっております。

資料5につきましては以上です。

■会長

事務局の説明が終わりました。

第2期の自立支援協議会に参加された方はご承知だと思いますが、市長からの検討依頼事項というものがあって、それぞれに対して、この点についてはこういう検討をいた

しましたという形で報告書を作るのですが、今回につきましては、3ページに記されているように、5項目の検討事項があったのですが、それに対応する形での報告書ではありません。最初に、23年度にライフステージごとの専門部会を設けてそれぞれの課題を整理して、それに基づいて、24年度に関してはツールと災害ということで専門部会を設置して一定の結論を得たものですから、最初に市長から検討依頼事項として出たものに対する回答という形にはいたしませんでした。その辺が前期とは違う報告書になっています。

この報告書の後半部分の24年度の検討結果については、最終報告案で皆さんに確認していただきましたので特に問題ないと思いますが、前半の部分は23年度の検討内容について、それぞれの部会の検討結果の報告となっております。部会ごとに課題を抽出し、課題としてあげた項目については、障害者計画推進協議会の中で一定の報告はさせていただいているところです。

この報告書について、ご質問、ご意見がございましたら伺いたいと思います。

(発言する者なし)

■会長

よろしいですか。無いようでしたら、この形で市長報告を副会長と一緒にさせていただくということで、準備を進めていきたいと思います。

(2) 今後の府中市障害者等地域自立支援協議会について (案)

■会長

それでは、協議事項の2番です。今後の府中市障害者等地域自立支援協議会について(案)を事務局から説明をお願いいたします。

■事務局

では、資料6についてご説明させていただきます。

来期に向けた自立支援協議会のあり方について、運営会議での検討等も踏まえまして作成したものでございます。基本的な構造は今期と同様としております。

なお、資料の2ページ、裏面になりますけれども、来期の自立支援協議会における専門部会の設置案について記載しておりますので、ご検討していただきますようお願い申し上げます。

以上でございます。

■会長

自立支援協議会の設置は法律で決まっておりますので、今回の自立支援協議会は今日で終わりなのですが、25年度は第4期ということで設置されます。そこで、どうやって進めていくかということについての案です。

基本的には変わりませんが、相談支援事業所が中核となって運営会議を開催して議題について調整するということと、あと、出てきた課題を個別に検討する部会として専門部会を設置するということです。

その専門部会の設置については、今まではその期が始まって改めて検討ということだったのですが、今回に関しては、来期の専門部会はこういったものを設置することを提案するという案になっています。

相談支援部会については、先ほどの委員からのご説明にもありましたように、サービス利用計画書が必須になったところで、まだまだ課題がありますので、それについて引き続き検討していくための部会を設置するということと、ツールに関しましては、先ほど示したツール案を、その周知徹底の方法も含めましてさらに検討を進める上でこの部会を設置することが必要ということで、この案を提出させていただいているところです。

専門部会の委員の構成については、府中市においては、専門部会もこの全体会の委員がそれぞれ振り分ける形で専門部会を構成しているのですが、地区によっては全体会の委員とは切り離れたところで専門部会を構成し検討というところもあり、やり方はその地区によって違いますので、府中市ではどうするかというのは自分たちで考えなくてはいけないのですけれども、当面この形で進めていけばいいのかどうかということも含めて、皆様に意見を伺いたいと思います。

■委員

すみません、ツール部会には参加していたので継続になった経過とかはよくわかるのですが、災害時支援検討部会を続けないというご判断になった理由を教えてくださいののですけれども。

■会長

しないという決断はしていないのですけれども、特段このまま継続して検討することが必要ということもまだ伺っていないので、とりあえずここには載っていないということですが、補足して何かあれば。

■委員

継続する、継続しないというのは、別に意見はありませんでした。今回、自分たちが何をしなくてはいけないのか、あと地域が何をしなくてはいけないのかという提案を市長には出せるので、継続というようなお話は委員からは出てきておりません。

■会長

大事な問題なのですが、ここで検討してどうこうなる話というのに、やはり限度があるというのも一つあるので、ここから先はこの場で検討するのではなくて、例えば防災課であったり、自治会であったり、別な部分で検討していかなければいけないところが災害については多いのだろうと私自身は思います。

今回これで終わるので、来期、新しく自立支援協議会の委員になられた皆さんで、災害に関してもまだ検討が必要ということであれば、その時点で部会を設置していただくことは何ら問題ないと思います。これは提案で、必ずしもこれだけをやるということではないので。ただ、この2つについては、来期も設置して継続して審議していくことが必要だと思いますという提案です。

■委員

強いて言えば、ヘルプカードがありますよね。確かこれは災害部会の中間報告でもさせていただいたのですけれども、個々の、例えば自宅にいただけではありませんし、通勤途中かもしれません、通学途中かもしれません、また、別の場所にいるかもしれません。委員からもいろいろなご意見を出していただいたりして、重要だということがあったと思うのですね。

■会長

市からも、ヘルプカードの中に記載する事項について自立支援協議会の中で協議してもらいたいということは伺っています。来期の自立支援協議会の委員の中で何を記載するのかについて改めて協議することになっていますので、そこを糸口に災害に関する部分も出てくるのかなとは思っています。

ほかに何かありますか。

(発言する者なし)

■会長

よろしいですか。

では、一応この2つの部会について設置し、中身を協議していくということで提案していきたいと考えます。

それでは、協議事項については以上です。

4 その他

■会長

では、議事の4番、その他になります。その他ということで、今会議をもちまして第3期の自立支援協議会の協議は終了となりますので、皆様から今期を振り返っての感想、また、来期に向けてのご希望、ご要望があれば皆様から伺いたいと思いますので、マイクを回しますので順番に。専門部会の持ち方ですとか、いろいろ思うところをおっしゃっていただければと思います。

■委員

今回、私はツール部会ですが、今までなかなかこういうツールがあるというのは、ちょっとは知っていたのですけれども、実際自分でやってみると、なかなか難しい部分もあったりしまして、かなり勉強させていただいたかなと思います。なかなかこれも1人では進まないものですから、本当に委員の皆様方にご協力いただき、事務局にご協力いただいて、ここまでできて本当に良かったかなという印象もあります。

まだまだ粗削りな部分がありますので、また、もし来期も委員でありましたら、そのツールづくりに携わってみたいかなと思っている次第でございます。

どうもありがとうございました。

■委員

正副会長、また事務局の方は、大変な任期を担っていただいてありがとうございます。自立支援協議会が始まってから、委託の相談支援事業所ということがあるので、ずっ

と同じ委員としてやらせていただいて、先ほどの運営会議等も部会も含めてやらせていただいているところで、なかなかこの自立支援協議会をどうやってうまく回していけるのだろうかとか、ここの役割はどういうことなのだろうかとか、最初に設置したところでは困難事例についてもありましたし、その困難事例を年に2～3回の会議でどうやって解決していくのだろうかということで、いろいろと議論を重ねてきたかなと思います。やっこの自立支援協議会というものが分かってきたというか、うまく回り出したのかなというのが今回の任期だったかなと思います。

ツールもそうですし、災害も、部会ないし協議会で一つの結果という形の残るものを作り上げられたというのは、大きな役割を一つ果たせているのかなと思います。ただ、まだまだツールに関しては、これから改良点について、実際やってもらえるようにしていかなくてはいけませんので、そういうところで協力していかなければいけないかなということと、あとは運営会議のこと、本当にそういったものも運営会議としてやったらいいだろうという悩みもありつつ、相談支援業所として担っていただいている委員と協力しながら進めていきたいなと思っています。

皆さん、ありがとうございました。

■ 委員

自立支援協議会を私も2期させていただいて、やっ自立支援協議会が何をやっていったらいいのかというのが形になり、皆さんの間で感覚的にも分かってきて、成果も出たのかなということが、良かったなと考えています。

あと、私にとって財産だったのは、ほかのいろいろな立場の方と部会や全体会議でお話しすることができて、子どもってこんな感じなのだとか、学校の先生とお話しできたらこんな感じなのかということで、こちらの目が広がったという、あと連携もとれるようになったということが、とてもよかったなと考えております。

奇しくも運営会議とツール部会、両方やらせていただいたのですけれども、今後もうろいろと皆様と協力してできたらいいなと考えています。

あとは、この間、自立支援協議会の立川のセミナーに行ってきた、また資料などをいただいたのですけれども、全く自立支援協議会をやっていないところもありますし、各ところでいろいろな方法をとっているの、府中は府中のやり方で一番いい方法をとれたらいいのではないかと考えました。どうもありがとうございました。

■ 委員

自立支援協議会の委員になったのは今回が初めてで、作業所等連絡協議会からの代表として出ているのですけれども、2年やっていて、各部会で決めていくとか、そういう検討内容は分かるのですけれども、全体像がいまいちまだ分かっていないところがあってですね。ただ、連絡会から一応代表で出ているので、連絡会に入っている各事業所の意見をどうやって吸い上げていくかというところでは、最後の災害の部分では、各種事業所とかに意見を聞けてはきているのですけれども、なかなかそこがうまくつながっていくことができなかったかなというのが反省点でした。

次の期に関しては、連絡会の役員の改正等で、引き続きやるかやらないかもまだ分からないという状況です。

あと、災害のことに関しては、ここでこういう報告を出して、どういう避難所でどういうものが必要なのかみたいなことを、どこかでやっていかないとならないとは思うのですね。そこは府中市で支援者のことなどの細かい詰めとかを、決めていかなければいけないのかなと。

さっき委員が話していた研修とかにしても、作業所連絡会で企画するのか、それとも社協でやっている人材育成、ああいうところで企画するのかとか、いろいろやり方はあると思うのですが、具体的にやっていかないと、災害が来てからでは遅いというのがあるので、どこかで早く計画を立てていかなければいけないのかなと思います。以上です。

■委員

私も同じで、連絡会からというところで参加させてもらったのですが、災害に参加させてもらって、私もこういう話が出た後、それから、住んでいる方たちが災害に遭ったときにどうしていったらいいかということを経験して、かつ接点がまだまだこれから続く場所ではあると思うので、そういったこともここだけではなく、また広がっていったらいいのかなと思いました。

参加できて本当に私の視野が広がったと思います。ありがとうございました。

■委員

私も何も分からない中で委員になりまして、皆さんのレベルの高さにちょっと最初引いていたところがあるのですが、災害の部会になり、いろいろな個人的な意見もお互いに言い合える場ができて、それは良かったと思います。

その中でぜひ要望したいのは、共助の中の施設とか団体が災害時に福祉事業所としての役割を担ってほしいというのは非常に良い提案だと思いますので、ぜひ実施されるように市に要望していきたいなと思いました。ありがとうございました。

■委員

ありがとうございました。精神障害者の家族会から出させていただきました。ツール部会のほうに参加させていただきましたけれども、こうしたノートを実際に目の前にすると、とても家族も客観的に対峙することができる。もう一つは、いろいろなところで、いろいろな痛みを感じながら、自分の子どもとか家族とか、そういうものがどういうふうに今まで医療機関にかかわってきたのか、相談機関にかかわってきたのか、そういうことについて痛みを伴って話さなければいけないのに、そういうノートがあると、客観的に話せるということは大変良いのではないかと感じておりますので、私は本当にこれが実現して、市民の一人一人の手元に届くように祈るような気持ちでおります。

それと、もう一つ、私は家族の立場からこの会議に出させていただきましたけれども、家族は結構練り言が多くて、大変な思いをさせられたとか、割とそういう痛みを持っております。もしかしたら、当事者の方が出ていただくとまた違った局面で意見が出され

るのではないかと考えております。今、精神に病気を抱いていらっしゃる方も社会の中で働いていらっしゃいますし、病気を克服して、あるいは病気と上手に闘いながら社会の中で生活されている方がたくさんいらっしゃいますので、そうした方々の声もやはりこういう中で反映させていかなければいけないのではないかと考えております。ですので、家族とともに当事者の参加ということもぜひご検討いただきたいと思います。

私自身は、家族会で相談とかを受けたりしておりますけれども、ほかの障害の方たちとお目にかかることは割と少ないものですから、こういうところで皆様といろいろと勉強させていただきまして本当によかったと考えております。ありがとうございました。

■委員

こんにちは。

私は一応災害に出たのですけれども、最初はなかなか部会長が決まらなくて、いきなり名前だけだったらいいですよと引き受けてしまったのですけれども、無責任でしたが、途中で病気になって病院に入院してしまったりして休んでしまったりして大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。本当にお世話になり、ありがとうございました。私は晴見町なので自治会があるか調べてみたら、きちんと自治会がありまして、その会長さんとお会いして、どのようになっているかお尋ねしました。そうしたら名簿をしっかりと作ってまして、府中市のほうに届けてあるとおっしゃっていたので、うちの自治会はしっかりしているのだと。年に何回も行事がありますし、それに参加していたのでちょっと安心しました。今回はありがとうございました。

■委員

私は、昨年度は児童部会で、今年度はツール部会に参加させていただいたのですけれども、ふだんは発達障害のお子さんにかかわっていて、会っている方は年齢とかタイプとかがとても限られているものですから、今回この機会を与えられて、特にツール部会、ツールを作るときって、本当に年齢だったりとか、障害種別だったりとか、その方が何に困っていらっしゃるかということで全然違うページが必要になったり、違う項目が必要になったりということで、ふだん余り考えたことがないことを知る機会になったので、メンバーとして役に立ったかどうかは別ですけれども、自分としては大変勉強になった2年間だったかと思います。

特に、全体会はもちろんなのですけれども、専門部会があったことで、より課題が深まったということと、オブザーバーの方のお話を聞く機会が昨年度も今年度もあったので、そこでより課題が深まったり、次の検討事項が見えたりということがありましたので、また来期以降にもそういう機会が設けられるといいのかなと思いました。どうもありがとうございました。

■委員

今年度、初めてこの会に参加させていただきました。

けやきの森は、大きい肢体不自由の学校と大きな知的の学校が合体した訳ですけれども、その中で、自分と同じような進路専任という人間が自分を含めて3名おりまして、

その3名のうち知的の部門に所属している2名が、三鷹市の協議会と狛江市と調布市にそれぞれ行っています。そこでは就労の部会といいますか、その関係した部会に所属していて、割と学校を卒業した後の話が中心になっているようです。

自分はここに参加し始めて、私は余りわかっていないので皆さんに迷惑をかけてしまったのですが、進路専任と別に、学校の組織の中で地域支援部というものがありまして、そこに特別支援コーディネーターという教員がいて、その教員が物すごく詳しい。やはり教員をやっている、その先生が私の代わりにここにいたら、私の100倍も意見を言っていますね。そういうようなことを思いながら、僕で申し訳ないですと思いながら参加していました。

ただ、私は進路にかかわっていますので、いろいろな方のご意見とか話を聞かせていただいて、すごくためになりました。今も高等部所属ですので、今の高等部の生徒、それから卒業生のこともすごく気になっている事案がありまして、そういったことでも相談に乗ってもらいましたし、ちょっと自立支援協議会の話とずれてしまうのかもしれませんが、本当にためになって良かったです。

個人的なことですが、私は府中市にすごく縁がありまして、恩返しをしたいなと思っているのですが、来年またここにいさせていただければ、もう少し話ができるようになればと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

■委員

私は23年度、24年度と参加したのですが、23年度は専門部会には参加できなくて申し訳ございませんでした。ただ、市長の報告案等に、青年部会、検討結果報告の就労に向けてというところで、課題とかいろいろ載せていただいて、こちらは本当にありがとうございました。

そして、こむたんですか、開設いただいておりますが、これができただけでも大変ありがたいなとハローワークでは思っております。

それと、皆さんのマンパワーの限界というのは本当に感じておりますので、できましたら精神に特化した選択ができるというなとハローワークでは思っております。専門部会には参加しなかったのですが、こちら上げていただきましてありがとうございました。

平成24年度については、災害時検討部会に参加させていただいたのですが、やはり個人での日ごろの備え、安全対策とか食料等の備蓄、薬など、また、地域との交流、それから防災訓練への参加、これは本当に重要だと思うのですが、ただ、私は自治会とかがないところに住んでおりまして、そういう方がどうやってというのはちょっと難しいのかなというのが私の感想でございます。地震も来るのでしょうから、また次回、この災害部会をやるかやらないか分からないですが、もう少し細かく府中市もやっていただければと思っております。

2年間どうもお世話になりました。

■委員

私は昨年度児童部会で、今年度はツール部会でお世話になりました。今年度は、この

全体会になかなか出席できなくて、今年度、今日が初めてだと思います。あまり出席できなくて申し訳ありませんでした。

ツール部会ですけれども、全市民対象ということにしましたので、母子手帳と一緒に配る分については、なるべく障害という雰囲気抜きで最終的な案になっているかと思うのですが、いざ私どもの多摩療育園に通っているお子さんに書いてもらおうとしたら、これでは足りない部分が多くて、内部障害の方ですとか、視覚あるいは聴覚障害の方にとっては、書きづらい部分もきっとまだまだあるものになっているのではないかと思いますので、来年度継続してモニタリングしていただいて、いろいろな障害の方に試していただいて、ご意見をいただきながらいいものにできたらと思っています。

このツールを作るときに他県の親の会のツールを参考にさせていただいたのですけれども、その親の会の会長は、自立支援協議会でこういうツールを検討できることはすごいねとお褒めをいただいていますので、ご報告をさせていただきます。

私自身もこういう場でいろいろな施設の方とお会いできて、この協議会自体の目的の一つが連携だと思いますので、顔を見ながらの連携ということができて非常にうれしく思っております。ありがとうございました。

■委員

私は前任から引き継いでこの1年間、短いですが参加させていただきました。いろいろな理解不足等で何のお役にも立てなかったのは非常に申し訳ないのですが、ただ逆に、参加させていただくと、非常にいろいろなご意見とかそういうので勉強させていただきました。

私も今、都立の一施設の職員としてこちらに参加させていただいていますけれども、都立ということで、母体といいますか上級官庁は東京都の障害者政策推進部でもありますので、こういう貴重なご意見とか考え方、この報告書もそうですけれども、都にもぜひ紹介していきたいと思います。どうもありがとうございました。

■委員

今回で3期目ですが、自立支援協議会に参加させていただいているのですが、一番大変で、でも自立支援協議会らしいなと思ったのが、災害の部会と今期、前年度の成年後見制度だと思います。なぜかと言いますと、まず、この自立支援協議会というのはいろいろな協議をする場かも知れないのですが、やはり支援が必要な方、そういう制度が必要な方、さまざまな何かしらの対象の方がいらっしやって、どういう支援を作ろうかと。そのときに、今までは行政、公助が中心だったかもしれませんが、やはりそれだけでは難しいことがいっぱいある。自立支援協議会の出発点は、やはり自分たち、あとはさまざまな団体、そして行政、そこが密になって一人ひとりの方たちの必要なことを支援し、それを検討していくのが自立支援協議会なので、今回、防災・災害というのは、考え方によっては、本当に自助、共助、公助が必要なのだな、まさしくこれは自立支援協議会で上げていただいて良かったものではないかと今思っております。

前年度は、成年後見制度の関係をやったのですが、このときについても、委員さんと

話している中で、行政でこういう制度を作っていただいたら、それをどう使うか、どう自分の子どもや家族のためにやっていくのかというところが、自分たちで考えていかないとこの制度は生かされないなというのが分かったところがありますし、今期は本当に参考になりましたし、これからもこの自立支援協議会というのはとても重要な協議をする場になると思いますので、事務局は大変かも知れませんが、関係する団体の人たちもやはりこの会議の重要性を認識していただいて、積極的に参加をしていただいている協議していただければと思います。

簡単ですが、以上です。

■委員

自立支援協議会の副会長という形で座らせていただいていますけれども、僕の役割は、もっぱらこの椅子を温める程度しかできませんで失礼いたしました。

ただ、この自立支援協議会で専門部会とかを通じて、皆さんいろいろな経験であったり知識だったりをお持ちの方たちが集まることで、何かこうなったらいいだろうな、良くなっていくだろうなという思いを皆さんで出し合いながら、ちょっとずつ形になっていったのはとても良いことだなと思いました。

今回せっかく、ツールは途中だとは言えども、形になってきているものもありますし、災害に関しても、ある程度の提案や要望は出せていると思いますので、ぜひそれが今後にも、皆さん最初に思ったこと、皆さんが使えるようなもの、使っていけるようなことにつながっていければということを願っております。大変お世話になりました。

■会長

一応、次第では私が最後にあいさつすることになっていますが、先にしてしまおうと思います。

本当に2年間どうもお世話になりました。ありがとうございました。なかなか私に至らない点が多々ありまして、委員の皆様、事務局の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。皆様の積極的な参加・協議によりまして、先ほど皆さんもおっしゃったように、1つの成果物としてこういった報告書をまとめることができましたので、私個人的には大変満足しております。

大変貴重な時間を皆様にここで割いていただきましたので、ここで交わした協議の内容等々を皆様の普段活躍されているフィールドの中でもぜひとも生かしていただきたいと考えております。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

それでは、各委員からいろいろご意見がありましたので、事務局に対する宿題も何点かあったと思いますので、その点も踏まえて、来期以降はぜひ活かしていただきたいと思います。

最後に事務局から何かありましたらお願いします。

■事務局

では、事務局から連絡事項を申しあげたいと思います。

本日の会議の会議記録についてでございますが、通常でございますと、次の会議にお

きまして内容を皆様にご確認いただいた後で、承認後、公開という形になっておりますが、今期の会議は本日が最後となりますので、おおむね1カ月半以内に事務局から議事録の案を電子メールまたは郵送等でお送りさせていただきます。内容をご確認いただきまして、修正等を希望される点等がございましたら、ご連絡をいただき、特にご連絡がなければ、承認をいただいたものとさせていただきますして公開の手続をさせていただければと考えております。

事務局からの連絡事項は以上となりますが、最後に、事務局を代表いたしまして福祉保健部長より皆様にごあいさつを申し上げます。

■福祉保健部長

一応事務局から最後のお礼のごあいさつということで台本をいただいているのですが、今、皆様のお話を聞いたり、2年間ほど、障害であったり、高齢であったり、あるいは健康づくり、福祉のまちとか、いろいろな分野で協議会がございまして、そこで感じていることをちょっとお話しさせていただければと思うのですが、委員がおっしゃられたように、確かに自助、共助、公助といった考え方がここ数年入ってきました。これを考えると、いろいろな協議会で話が出ているものをまとめると、多分、地域ということが1つのキーワードになっているのではないかと私は今感じています。

いろいろな課題とか問題があるのですけれども、それぞれお考えになっていた制度であったり、取り組みであったり、そういったものとか、こういったところが問題になっているとか、こういうことが課題になっているというのは、まだまだ一般の市民の方に浸透してっていないというところがあるのですね。我々関係者が、行政、市も当然やるのですけれども、なかなか市民の末端まで広がりを持っていないというところをつくづく感じていまして、皆様方を初め、高齢、障害、それから地域まちづくり、健康づくりにかかわっている関係者の方々には、やはりロコミというか、皆さんが伝えていくという誇りを持ってやっていただけると、もっともっと広がりを持っていくのではないかと考えています。

市長も、昨年2月に新しい市長になり、自助、共助、公助を初めとした地域のやり方の中で、今、市長が「協働」という言葉を言っていて、災害時であるとか、自治会であるとか、それから高齢者であったり、障害者であったり、そういったところの方々の協働があって初めて地域ができていくという考え方をしておりますので、これからますますそういったところに力を入れていかなければいけないかなと私たちも考えています。

4月から25年度が始まりますけれども、障害者の計画であったり、高齢者の計画、地域まちづくりの計画、それぞれの次の計画が27年度から始まるのですが、それに向けて計画の策定が今年から始まりますので、今までの計画というのは、どちらかというと一般論に終始してしまったり、総合的なところがある傾向があったのですけれども、先ほど委員のお話にありましたが、やはり具体的な計画を作っていないとなかなか実現していかないかなと思っていますので、その辺についてもぜひ皆様のお力を借りなが

ら私たちもやっていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

それでは、台本どおり、ちょっと読ませていただきます。

皆様には、本日まで長時間にわたりましてご検討を賜り、誠にありがとうございました。第3期の府中市障害者等地域自立支援協議会につきましては、平成23年度及び24年度の2年間にわたりまして合計で6回の全体会、また、運営会議や各専門部会におきましても活発なご意見いただきましたことに、重ねてお礼申し上げます。

このたび市長に対してご提出をいただく本協議会からの報告書につきましては、その内容を十分に踏まえて今後の行政運営に反映してまいりたいと存じます。

最後に、委員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、お礼のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

■会長

いろいろありがとうございました。

これをもちまして協議会はすべて終了となります。

委員の皆様には、先ほど事務局からありましたように、議事録の確認が最後残っておりますので、そちらをよろしくお願いいたします。

正副会長は、3月26日に皆様のご意見を伺ったものをきちんと市長に伝えていくということで任務を終わらせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

以上